



ASMIS
インタフェース
取り扱い説明書

記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

IBM PC/AT は、米国 IBM 社の商標です。

i80386,i80486 は、米国インテル社の商標です。

MS-DOS,Windows は、米国マイクロソフト社の商標です。

Windows の正式名称は、Microsoft® Windows™ Operating System です。

本製品は外国為替および外国貿易管理法の規定により戦略物資等（または役務）に該当する恐れがありますので、日本国外に輸出する場合には、同法に基づき日本国政府の許可が必要となります。

本資料の内容は、後日変更する場合があります。

文書による当社の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。

この製品を使用した事により、第三者の工業所有権等にかかわる問題が発生した場合、当社製品の構造製法に直接かかわるもの以外につきましては、当社はその責を負いませんのでご了承ください。

はじめに

この度はA S M I Sインタフェースをお買い上げ頂きまして誠に有り難うございます。
A S M I Sインタフェースは、専用パラレル・インタフェースを用いることにより、高速での通信を実現しています。

A S M I Sインタフェースでは、下記の3タイプを用意しております。

- ・ I F - 9 8 D (N E C 製 P C 9 8 の C バスを使用)
- ・ I F - P C D (I B M P C / A T 互換機の I S A バスを使用)
- ・ I F - C A R D (P C M C I A を使用)

この「A S M I Sインタフェース取り扱い説明書」は、ホストマシンとA S M I Sインタフェースの設定及び接続方法について説明したものです。

本製品をご使用する前に、必ずこの説明書をお読みください。

《この取扱説明書の構成》

- ・ 1 章 P C 9 8 用インタフェース・ボード
I F - 9 8 D の設定及び接続方法について
- ・ 2 章 P C / A T 用インタフェース・ボード
I F - P C D の設定及び接続方法について
- ・ 3 章 P C M C I A 用インタフェース・カード
I F - C A R D の接続及びソフトウェアの設定方法について

目 次

1章	PC98用インタフェース・ボード	1
1.1	本製品について	1
1.2	基本仕様	1
1.3	インストール	2
1.3.1	I/Oアドレスの設定	2
1.3.2	PCの設置	3
1.3.3	ASMI Sとの接続	3
1.3.4	環境変数の登録	3
2章	PC/AT用インタフェース・ボード	4
2.1	本製品について	4
2.2	基本仕様	4
2.3	インストール	5
2.3.1	I/Oアドレスの設定	5
2.3.2	PCへの設置	6
2.3.3	ASMI Sとの接続	6
1.3.4	環境変数の登録	6
3章	PCMCIA用インタフェース・カード	7
3.1	本製品について	7
3.2	基本仕様	7
3.3	PCカードの接続	8
3.4	ソフトウェアのセットアップ (DOS, Windows3.1の場合)	8
3.4.1	カードサポートソフトウェアの確認	8
3.4.2	PCカードドライバの実行	9
3.4.3	環境変数の登録	10
3.5	ソフトウェアのセットアップ (Windows95の場合)	11
3.5.1	手順概要	11
3.5.2	カードサービスの確認	11
3.5.3	カード個別ドライバの組み込み及びI/Oアドレスの取得	12
3.5.3.1	Windows95 (4.00.950 又は 4.00.950 a) の場合	12
3.5.3.2	Windows95 (4.00.950 B) の場合	14
3.5.4	PCカードが認識されない時のヒント	19

1章 PC98用インタフェース・ボード

1.1 本製品について

本製品は、NEC製 PC98シリーズのCバススロットに実装して使用する、ASMISシリーズ用のインタフェース・ボードです。

本製品には、下記のものが付属しています。最初にご確認下さい。

- | | |
|----------------|----|
| 1. IF-98D本体 | 1枚 |
| 2. インタフェースケーブル | 1本 |

1.2 基本仕様

・対応機種

本製品は、PC98シリーズのCバスを有した機種が対象です。(PCIバスには対応しておりません)

・使用ハードウェア資源

I/Oアドレス 00D0hからFFDFhの間で任意の256バイト境界中の16バイトを使用。
割込み、他 未使用

・消費電流

+5V, 500mA (MAX)

お取り扱い上の注意

- * ボードに重いものを乗せたり、圧力を与えないで下さい。
- * ボードを落としたり、振動や衝撃を与えないで下さい。
- * ケーブルを抜くときは、コードを引っ張らないで下さい。
- * 高温、多湿、ほこりの多い環境や直射日光のあたる環境での使用や保存を避けて下さい。
- * 急激な環境(温度や湿度)の変化を避けて下さい。
- * ボードや付属品に飲み物や水分をこぼしたりしないで下さい。
- * 他の製品のケーブルなどをコネクタに接続しないで下さい。

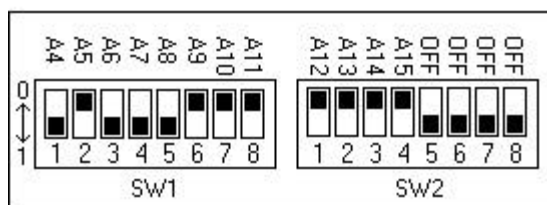
1.3 インストール

1.3.1 I/Oアドレスの設定

インタフェース・ボードのI/Oアドレスの設定を以下の方法で行います。

インタフェース・ボード上のSW1, 2で、I/Oアドレスを選択することが可能です。

ここで設定するI/Oアドレスは、PCのシステム及び他のボードで使用していない値でなければなりません。また、ソフトウェアの設定でこの値を使用しますので、後で分かるようにしておいて下さい。



初期設定では上の図のようになってます。(出荷時設定 = 01D0h)

A8 - A15のスイッチは自由に変更することができます。(00D0h ~ FFD0h)

スイッチの設定はそれぞれ

スイッチ	SW2				SW1				SW1				SW2			
	4	3	2	1	8	7	6	5	4	3	2	1	5	6	7	8
シルク	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	O	O	O	O
0(ON側)/ 1(OFF側)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
I/Oアドレス 出荷時設定 = 01D0h	0				1				D				0h			
									(固定)				(固定)			

■ : スイッチ固定

に対応しています。

I/Oアドレスの各桁の算出方法は2進数の4bitで計算できます。

例) (0011)b = (3)h

注意

SW1の1~4と、SW2の5~8は出荷時設定でご使用下さい。

2章 PC / AT用インタフェース・ボード

2.1 本製品について

本製品は、IBM PC / AT互換機のISAバススロットに実装して使用する、ASMISシリーズ用のインタフェース・ボードです。

本製品には、下記のものが付属しています。最初にご確認下さい。

- | | |
|----------------|----|
| 1. IF - PCD本体 | 1枚 |
| 2. インタフェースケーブル | 1本 |

2.2 基本仕様

・対応機種

本製品は、IBM PC / AT互換機のISAバスを有した機種が対象です。
(PCIバスには対応していません)

・使用ハードウェア資源

I/Oアドレス 0200hから03Fhの間で任意の16バイト境界中の16バイトを使用。
割込み、他 未使用

・消費電流

+5V, 500mA (MAX)

お取り扱い上の注意

- * ボードに重いものを乗せたり、圧力を与えないで下さい。
- * ボードを落としたり、振動や衝撃を与えないで下さい。
- * ケーブルを抜くときは、コードを引っ張らないで下さい。
- * 高温、多湿、ほこりの多い環境や直射日光のあたる環境での使用や保存を避けて下さい。
- * 急激な環境(温度や湿度)の変化を避けて下さい。
- * ボードや付属品に飲み物や水分をこぼしたりしないで下さい。
- * 他の製品のケーブルなどをコネクタに接続しないで下さい。

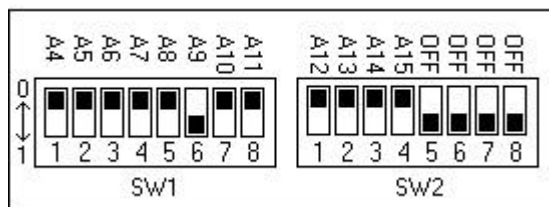
2.3 インストール

2.3.1 I/Oアドレスの設定

インタフェース・ボードのI/Oアドレスの設定を以下の方法で行います。

インタフェース・ボード上のSW1, 2で、I/Oアドレスを選択することが可能です。

ここで設定するI/Oアドレスは、PCのシステム及び他のボードで使用していない値でなければなりません。また、ソフトウェアの設定でこの値を使用しますので、後で分かるようにしておいて下さい。



初期設定では上の図のようになってます。(出荷時設定 = 0200h)

A4 - A11のスイッチは自由に変更することができます。(0200h ~ 03F0h)

スイッチの設定はそれぞれ

スイッチ	SW2				SW1				SW1				SW2			
	4	3	2	1	8	7	6	5	4	3	2	1	5	6	7	8
シルク	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	O	O	O	O
0(ON側)/ 1(OFF側)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	F	F	F	F
I/Oアドレス 出荷時設定 = 0200h	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	5	6	7
	0 (固定)				2				0				0 h			
													(固定)			

■ : スイッチ固定

に対応しています。

I/Oアドレスの各桁の算出方法は2進数の4bitで計算できます。

例) (0011)b = (3)h

注意

SW2の1 ~ 8は出荷時設定でご使用下さい。

2.3.2 PCへの設置

PCの電源が切れている事を確認し、PCの取り扱い説明書にしたがって、インタフェース・ボードをISAバス・スロットに取り付けて下さい。

2.3.3 ASMISとの接続

付属のケーブルを使用して、インタフェース・ボードの "CH0" 側に接続して下さい。

注意

ASMISシリーズとの接続はCH0側のみ可能です。
これ以外の機種との接続はそれぞれの製品の取り扱い説明書を参照して下さい。

2.3.4 環境変数の登録

スクリーン・ディバッガの起動前には、インタフェース・ボードのI/Oアドレスを設定しておく必要があります。

設定例：SET NSBASE = 200, B
 *1 *2

*1：インタフェース・ボードのI/Oアドレス

*2：この場合の " B " はインタフェースボードを使用することを意味します。

この後に

SET

で正しく設定されていることを確認して下さい。

環境変数の指定は、MS-DOSのAUTOEXEC.BAT内またはスクリーン・ディバッガを起動するバッチ・ファイル内で指定すると便利です。

3章 PCMCIA用インタフェース・カード

3.1 本製品について

本製品には、下記のものが付属します。まず付属品の確認を行なってください。

- | | |
|-----------------------|----|
| 1. I F - C A R D本体 | 1個 |
| 2. P Cカード用インタフェースケーブル | 1本 |

本PCカード用のコントロールソフトとして、以下のファイルが必要です。

- | | |
|----------|---|
| PCIF.EXE | PCカードインタフェース用のドライバプログラム
(Windows95では必要ありません) |
|----------|---|

このファイルは、コントロールソフトに付属しています。必要に応じ、ハードディスクにコピーしてご使用下さい。

3.2 基本仕様

対応機種

本製品はDOS/VマシンおよびPC-98でPCカードスロットを装備している機種が対象です。

本製品は、PCMCIA Ver2.1/JEIDA Ver4.2で規定されているType- カードです。

使用ハードウェア資源

- | | |
|---------|-------------------|
| I/Oアドレス | 8バイト境界で任意の8バイトを使用 |
| 割り込み | 未使用 |

消費電流

- | | |
|------------|---------|
| PCカードの消費電流 | 標準 80mA |
|------------|---------|

カードサポートソフトウェア

PCMCIA Ver2.1/JEIDA Ver4.2以上のソケットサービスとカードサービスがインストールされていること。

取り扱い上の注意

- * PCカードに重いものを乗せたり、圧力を与えないでください。
- * PCカードを落としたり、振動や衝撃を与えないでください。
- * ケーブルを抜くときや、PCカードを抜くときにコードを引っ張らないでください。
- * 高温、多湿、ほこりの多い環境や直射日光のあたる環境での使用や保存を避けてください。
- * 急激な環境（温度や湿度）の変化を避けてください。
- * PCカードや付属品に飲み物や水分をこぼしたりしないでください。
- * その他のPCカードと間違えてコネクタの接続をしないでください。

3.3 PCカードの接続

以下の手順でPCカードの接続を行って下さい。

- (1) PCカードにカード側のケーブルを接続します。このとき、コネクタの上下に注意してください。コネクタに三角マークが付いている方が上面です。
- (2) パソコンの電源を切ってから、PCカードをスロットに挿入します。このとき、PCカードに製品名が印刷されている方を上面にしてください。スロットが複数あるパソコンでは、どのスロットに挿入しても構いません。
- (3) ケーブルを使用する機器に接続してください。
- (4) パソコンの電源を入れてください。
- (5) 使用する機器の電源を入れて下さい。

3.4 ソフトウェアのセットアップ(DOS, Windows3.1の場合)

3.4.1 カードサポートソフトウェアの確認

PCカードインタフェースを動作させるためには、あらかじめご使用になられるパソコンに付属の「PCカードサポートソフトウェア」がインストールされていなければいけません。PCカードサポートソフトウェアの基本的構成は以下のとおりです。

ソケットサービス

PCMCIAソケットサービスドライバ(SSxx.SYS, SSxx.EXEなど)
>> PCカードのハードウェアを管理するためのドライバです。

カードサービス

PCMCIAカードサービスドライバ(CS.EXE, PCMCS.EXEなど)
>> PCカードをソフトウェアで操作するための、OSレベルのプログラムです。

資源管理

パソコンのハードウェア資源を管理するプログラム(CSALLOC.EXEなど)

その他

メモリカードなどのDOSに認識させるためのデバイスドライバなど

本製品をご使用いただくためには、最低限ソケットサービスとカードサービスがパソコンにインストールされている必要があります。パソコンにカードサポートソフトウェアがインストールされていることを確認してください。もし、インストールされていない場合はパソコンの取り扱い説明書などを参照してあらかじめインストールしてください。

PC-9821Ne, PC-9801NX/C, NS/A, NL/Rではソケットサービスまでが本体に付属します。カードサービスはNEC製の別売カードサポートソフトウェアが必要です。これらの機種で本製品を使用される場合は、別売カードサポートソフトウェア(PS98-1220-31)をご購入のうえインストールすることをお勧めします。

3.4.2 PCカードドライバの実行

PCカードインタフェースドライバ(PCIF.EXE)を実行します。このプログラムは、PCカードインタフェース用のドライバで常駐プログラムになっています。このプログラムは、PCカードを利用する場合に、あらかじめ実行して常駐しておく必要があります。

以下の説明ではCドライブのカレントを基準に説明しています。

ドライバの常駐(ロード)

以下のコマンドで、ドライバを常駐します。

- ・PCカードが使用するI/Oアドレスを自動的にスキャンして検索する場合

```
C>PCIF /A
```

- ・特定のI/Oアドレスを指定する場合

```
C>PCIF 2d0 (この場合はI/Oアドレス2d0h)
```

通常は、I/Oアドレスを自動スキャンで検索する方法でかまいません。このコマンドは、パソコン起動後に1回だけ実行する必要があります。また、このコマンドをWINDOWSのDOS互換ボックスで実行することはできません。

このコマンドは、UMB空間にロードすることもできます。

また、すでにこのドライバが常駐している場合は以下のメッセージを表示して常駐を取りやめます。

```
Already loaded
```

もし、以下のメッセージが表示される場合は、PCカードを使用することができません。原因を取り除いて下さい。

```
ERROR : Conflict I/O Address  
ERROR : Failure Card Configuration
```

【PCカードインタフェースドライバの起動例】

```
C>PCIF /A
```

```
WARNING: Card is not inserted  
PC-Card I/F Driver Load OK
```

PCカードがスロットに挿入されていない場合は、上記のワーニングが表示されます。このワーニングは、無視してかまいませんが、コントロールソフトを起動する前に、3.3の手順でPCカードをスロットにセットしてください。

ドライバの削除(アンロード)

以下のコマンドで常駐しているドライバをメモリから削除することができます。

```
C>PCIF /U
```

通常は、ドライバをメモリから削除する必要はありません。もし、PCIFドライバが常駐した後でほかの常駐プログラムが実行された場合には、ドライバを削除できない場合があります。

```
Can't Unload
```

このメッセージが表示される場合は、最後に登録した常駐プログラムから順番に逆順で常駐プログラムを削除してください。

PCカード情報の表示

以下のコマンドは、常駐しているドライバの状態を表示します。

C>PCIF /S

このとき、以下のメッセージが表示されます。

Not loaded PC-Card Driver
PCカードドライバ(PCIF.EXE)が常駐していません。

PC-CARD Driver is Loaded
Card is not inserted or Config failure
カードドライバは正常にロードされていますが、PCカードが挿入されていません。
または、PCカードのコンフィグレーションに失敗しました。

PC-CARD Driver is Loaded
Card Config OK..I/O Adr=xxx
PCカードドライバは正常にロードされています。またPCカードも挿入されており使用できる状態にあります。

注意

ディバッガのコントロールソフトが動作している状態で、PCカードの抜き差しは行わないでください。
ディバッガを含めたシステム全体が異常をきたします。

3.4.3 環境変数の登録

スクリーン・ディバッガの起動前には、インターフェース・カードのI/Oアドレスを設定しておく必要があります。

設定方法

C>PCIF /A,..... ドライバの常駐

C>PCIF /S,..... PCカード情報の表示

PC-CARD Driver is Loaded
Card Config OK..I/O Adr=260
*2

C>SET NSBASE=260,C,..... 環境変数の登録

*1 *2 *3

*1: S E TはDOSの内部コマンドです。詳しくはDOSのマニュアルを参照してください。

*2: インタフェース・カードのI/Oアドレスです。実際のI/Oアドレスはお客様のご使用になる環境によって異なります。(PCカード情報の表示にてI/Oアドレスを確認)

*3: この場合の"C"はP C M C I Aカードを使用することを意味します。

C>SET,..... 環境変数の登録を確認
正しく設定されていることを確認して下さい。

3.5 ソフトウェアのセットアップ(Windows95の場合)

3.5.1 手順概要

PCカード(A S M I S インタフェース)をWindows95で用いる場合の設定手順の概要を下記に示し、この手順に基づいて詳細を説明します。

- 1) PCカード(PCMCIA)のカードサービスが使用できる状態か調べる。
- 2) カード個別ドライバを組み込む。
- 3) PCカードインタフェースに割り振られたI/Oアドレスを取得する。

3.5.2 カードサービスの確認

PCカード(PCMCIA)のソケットを持ち「Plug & Play」に対応したパソコンの場合、Windows95をインストールした段階でPCカードをサポートする為のハードウェアが自動検出され、カードサービスが自動的に組み込まれます。

カードサービスが組み込まれている事はコントロール・パネルのシステムで確認できます。具体的には、[スタート] [設定] [コントロール パネル] [システム]で『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』タグを選択します。この時、『PCMCIA ソケット』というカテゴリ(下図ではリバース表示されている)があればPCカードのカードサービスが組み込まれています。



図の様に『PCMCIA ソケット』カテゴリがない場合は、PCカード用のカードサービスが組み込まれていません。その様な場合は、PCカード用のソケットが標準で付いているパソコンの場合はパソコンのマニュアルを、PCカード用のソケットがオプションの場合はそのPCカード用ソケットのハードウェアに付属していたマニュアルを参照して、PCカードのカードサービスを組み込んでください(例えば[スタート] [設定] [コントロール パネル] [ハードウェア]でドライバを組み込む事になります)。

3.5.3 カード個別ドライバの組み込み及びI/Oアドレスの取得

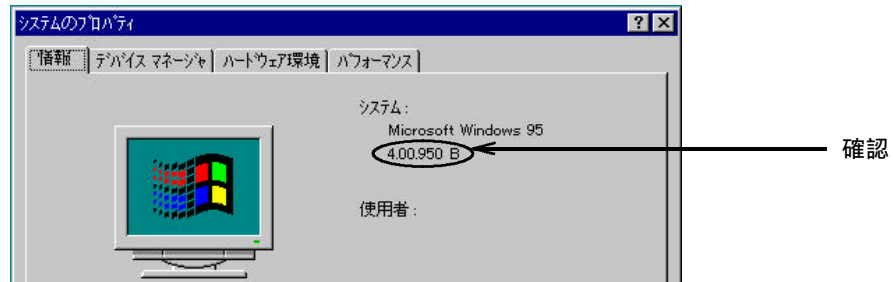
次にPCカード(PCMCIA)個別のドライバを組み込みます。PCカードインタフェースには特別なドライバは必要無いため、標準で用意されているドライバを組み込み、I/Oアドレスを取得します。

まず、標準のドライバの組み込み手順を下記に示します。

ただし、Windows 95のバージョンによって組み込む方法が異なります。

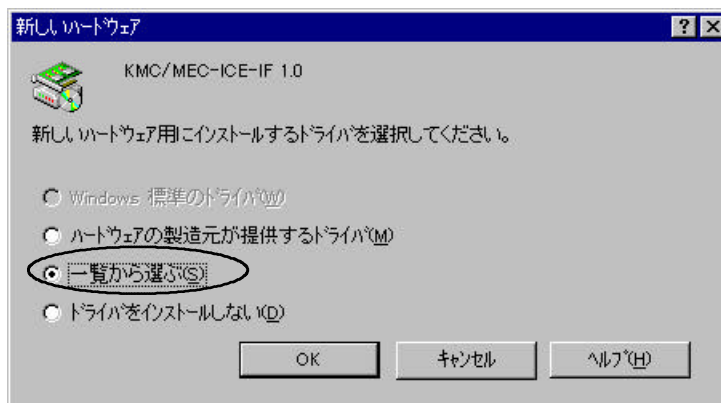
バージョンが"4.00.950 又は 4.00.950 a" か "4.00.950 B" を以下の場所で確認してください。

(バージョンの確認方法は[スタート] [設定] [コントロール パネル] [システム]です)



3.5.3.1 Windows 95 (4.00.950 又は 4.00.950 a) の場合

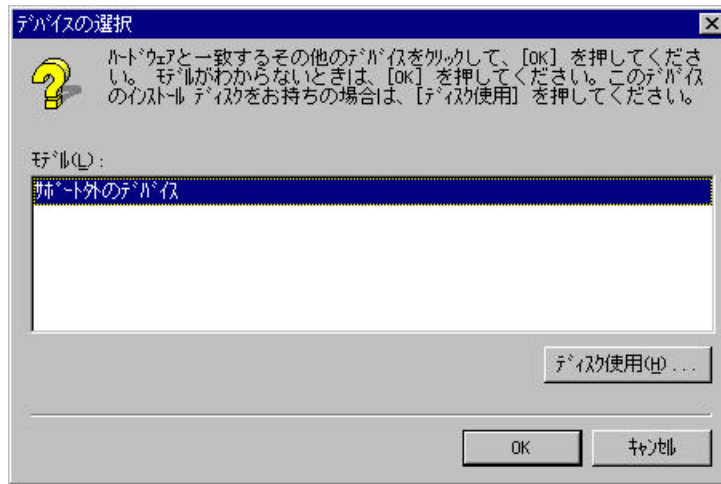
- 1) PCカードインタフェースをPCカード用ソケットに挿し込みます。すると新しいハードウェアが検出されたという『新しいハードウェア』ダイアログが表示されるので、『一覧から選ぶ』を選択しOKボタンを押します(パソコンによってはこのダイアログが表示されるまで暫くかかる事があります)。



- 2) 次に『ハードウェアの種類を選択』ダイアログが表示されますので、『その他のデバイス』を選択してOKボタンを押します。



- 3) 次に『デバイスの選択』ダイアログが表示されますので、『サポート外のデバイス』を選択してOKボタンを押します。するとカード個別ドライバがインストールされPCカードインタフェースが認識されます(この時カードを認識した事を知らせる『ピポッ』(サウンドON設定時)というような音がなります)。



- 4) 次にPCカードインタフェースに割り振られたI/Oアドレスを取得します。
[スタート] [設定] [コントロール パネル] [システム]で『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』タグを選択します。そして、『デバイス マネージャ』の一覧の中に『その他のデバイス』が表示されるので、これをダブルクリックするか、左側のプラス記号をクリックすると『サポート外のデバイス』が表示されます。



- 5) 『サポート外のデバイス』を選択し『プロパティ』ボタンを押すと『サポート外のデバイスのプロパティ』ダイアログが表示されるので、『リソース』タブを選択してください。



- 6) 『リソースの設定』の部分に表示されている『I/Oポートアドレス』の数値が求めるI/Oアドレスです(図では220)。

【注意】

- *1: PCカードを挿しても『新しいハードウェア』ダイアログが表示されない場合や、カードサービスが組み込まれた時に『ブーッ』(サウンドON設定時)というような音がした場合は、PCカードのカードサービスが正常に動作していない可能性があります。
『3.5.4 PCカードが認識されない時のヒント』を参照してカードサービスが正常に動作する様にしてください。

3.5.3.2 Windows 95 (4.00.950 B) の場合

- 1) インタフェースカード (I F - C A R D) を差し込み、以下の画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。



2)以下の画面になったら、「完了」をクリックします。



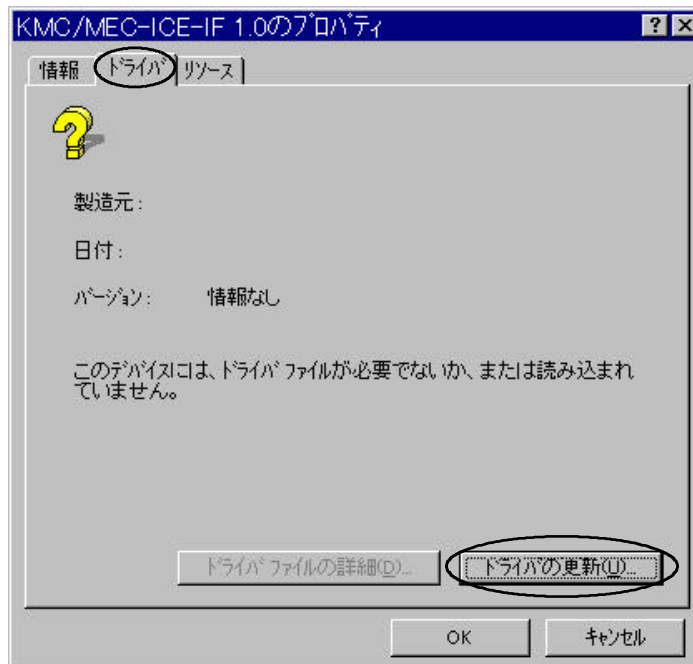
3)次に、「スタートメニュー」「設定」「コントロールパネル」「システム」を開き以下の画面を出します。ここで「KMC/MEC-ICE-IF 1.0」には「！」マークが付いていますが、クリックします。



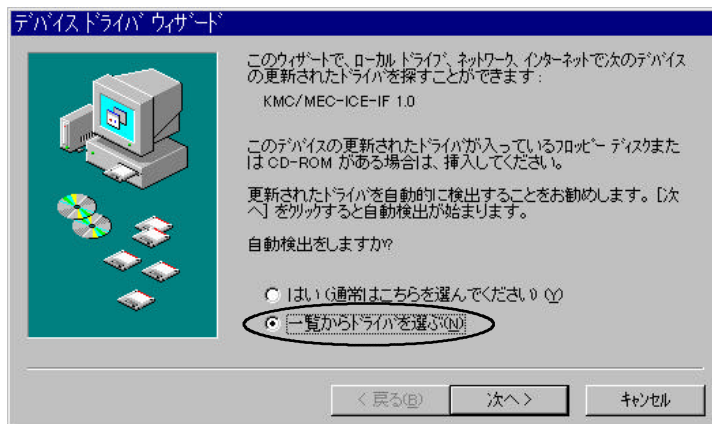
4)「KMC/MEC-ICE-IF 1.0」を選択してプロパティ(R)をクリックすると以下の画面が出ます。この状態ではまだドライバが組み込まれていません。



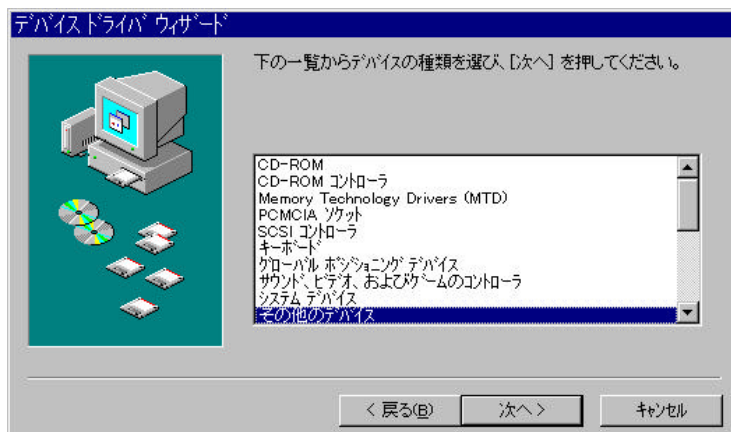
5) 「ドライバ」を開き、「ドライバの更新」をクリックします。



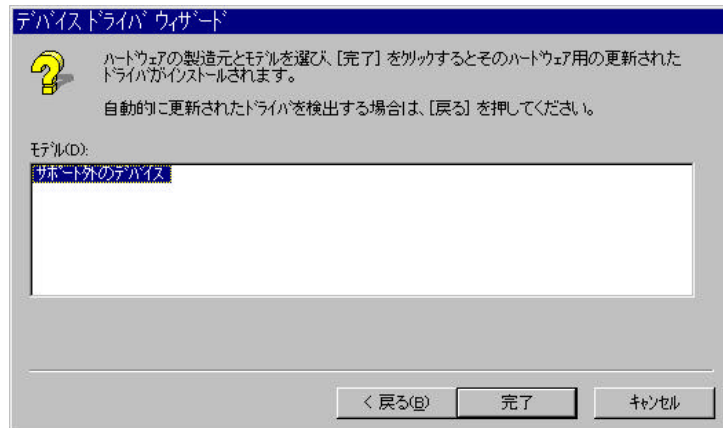
6) 「デバイスドライバウィザード」が表示されたら、「一覧からドライバを選ぶ」を選択してから、「次へ」をクリックします。



7) 「その他のデバイス」を選択してから、「次へ」をクリックします。



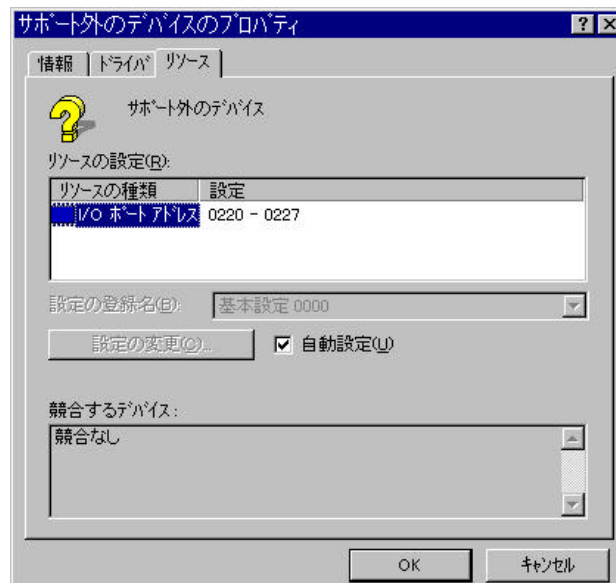
- 8) 「サポート外のデバイス」を選択してから、「完了」をクリックします。ここで初めてカードが認識され「ピポッ」という音がします。(サウンドON設定時)



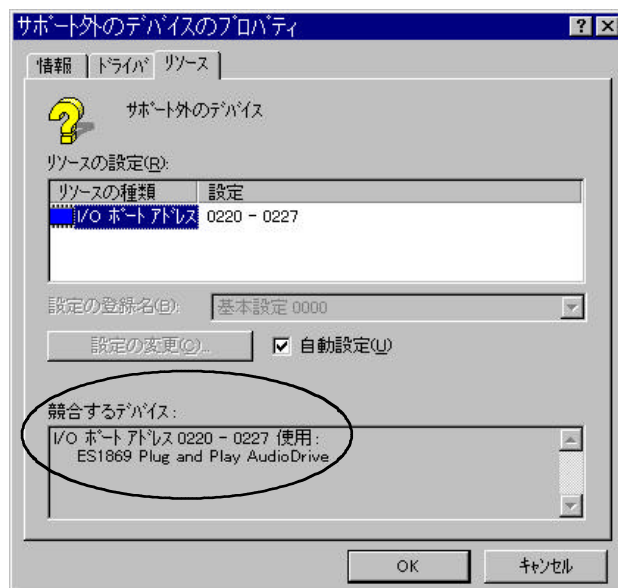
- 9) ドライバの更新が終わった後に「リソース」を開き、「手動設定」を選びます。



- 10) ここに表示されている I / O ポートアドレス(この絵の場合220)をディバugg等に設定します。



ただし、以下のように「競合するデバイス」が存在する場合は、他のデバイスの使用している I / O ポートアドレスを変更します。



11) これまでの一連の作業でデバイス名が「KMC / MEC - ICE - IF 1.0」から「サポート外のデバイス」に変わります。



【注意】

設定の順序を間違えた場合や、うまく動作しない場合は一度 KMC / MEC - ICE - IF 1.0 や「サポート外のデバイス」を削除して、もう一度はじめから設定してください。

3.5.4 PCカードが認識されない時のヒント

PCカードがうまく認識できない場合、その原因のほとんどがPCカードのカードサービスが正常に動作していない事が考えられます。また、カードサービスが正常に動作していない原因のほとんどはハードの設定などのパソコン固有の問題であり、ここで全てのケースについて言及するのはとても無理です。

そこで、ここでは一般的に考えられる問題の対処方法を説明することで、問題解決のヒントを示したいと思います。

最近まで動作していたのに接続できなくなった

PCカードインタフェースが最近まで何の問題もなく動作していたはずなのに、接続が出来なくなった、という時はPCカードインタフェースのI/Oアドレスが変わっている事が考えられます。

パソコンのハードウェアの状態を変えた場合、例えばグラフィックカードを今までのとは異なるものに取替えたとか、新しくサウンド・カードを増設したというような場合、PCカードインタフェースのI/Oアドレスが変わってしまう事があります。

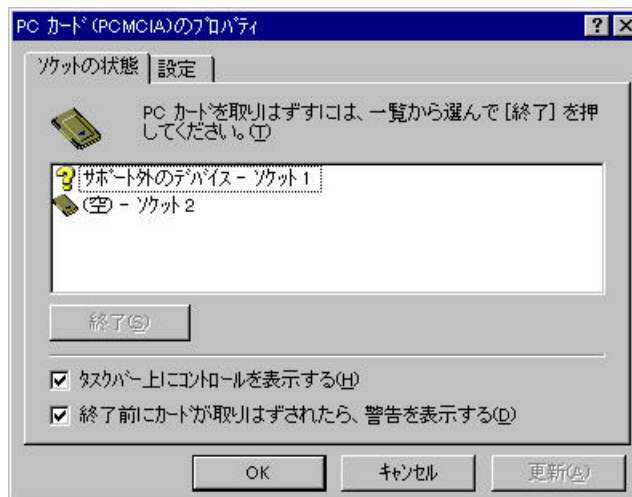
PCカードインタフェースのI/Oアドレスは、カード・サービスが自動的に空いているI/Oアドレスを探して割り当ててくれる為、パソコンのハードウェアの状況が変わると自動割り付けされるI/Oアドレスが変わってしまう事がある為です。

この様な時は、『3.5.3 カード個別ドライバの組み込み及びI/Oアドレスの取得』に従って再度PCカードインタフェースのI/Oアドレスをコントロールソフトに設定し直してください。

『新しいハードウェア』ダイアログが表示されない

カード固有のドライバを組み込む際に『新しいハードウェア』ダイアログが開かなかった場合や、間違っ
て組み込んでしまったため既に組み込まれているカード固有のドライバを取り替えたい場合の手順を下記に示します。

- 1) PCカードインタフェースがソケットに挿さっている状態で、[スタート] [設定] [コントロールパネル] [PCカード(PCMCIA)]で『PCカード(PCMCIA)のプロパティ』ダイアログを表示させ、『ソケットの状態』タブを表示させます。



- 2) PCカードインタフェースが挿さっているソケットのデバイス名(上図の場合『サポート外のデバイス』ですが間違ったPCカード固有ドライバを組み込んでしまった後では異なる事があります)を覚えておきます。
- 3) [スタート] [設定] [コントロール パネル] [システム]で『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』タブを選択します。ここで2)のデバイスを探し選択します。
- 4) 2)のデバイスが選択されている事を確認し、『削除(E)』ボタンを押しデバイスを削除します。(注意:間違ったデバイスを削除しない様に慎重に作業してください)
- 5) 一旦PCカードインタフェースを抜き、数秒待ってからPCカードインタフェースを再度ソケットに挿します。すると『カード個別ドライバの組み込み』で説明した『新しいハードウェア』ダイアログが開きます。これ以降の手順は『3.5.3 カード個別ドライバの組み込み及びI/Oアドレスの取得』を参照してください。

PCカードを挿すと『ブーツ』(サウンドON設定時)という音がする

PCカードインタフェースをソケットに挿した時に『ピポッ』という感じの音ではなく、『ブーツ』というような音がする場合は、PCカードのカードサービスがうまく動作していない事が考えられます。この原因としてはPCカードのカードサービスの組み込みの際に間違ったドライバをインストールしたとか、パソコンによってはBIOSの設定(ISA-BUSシェアードメモリの設定など)が間違っているなどの原因が考えられます。

この様な場合は、パソコンもしくはPCカード・ソケットのハードウェアに付属してきたマニュアルを参照して、PCカードのカード・サービスが正常に動作する様にしてください。